

## 第 3 回かわにし市民会議 議事メモ

|            |                                          |
|------------|------------------------------------------|
| 班          | 5 班「生きがいと地域交流の促進」                        |
| コーディネーター   | 伴 幸俊                                     |
| ナビゲーター     | 山中 光茂                                    |
| 説明担当者（自治体） | なし                                       |
| 日時         | 2019 年 7 月 27 日（土） 13 時 00 分から 16 時 00 分 |
| 場所         | 川西市役所 2 階 202 会議室                        |
| その他        | 参加者数 14 名                                |

## 趣旨・概要

松阪市住民協議会について説明、議論を進めるにあたってのアドバイス

テーマについて、新たな取り組みを考えるグループと改善策を考えるグループにわかれての議論、発表

## 総括

## コーディネーター総括

テーマに関して推進会議会長から変更の提案があった。5 班のテーマは「生きがいと地域交流の促進」であるが、「生きがい」は個人の感性に関わるものであり、総合戦略を考える上では馴染まない。今までも議論としては「生きがいのもてる、やりがいのある地域交流の促進」という観点で議論してきた。引き続き方向性を変えず議論していきたいと思う。

今回は 2 グループに分かれて議論を行い、いくつか議論するテーマを絞り込むところまでやった。次回の市民会議までに、絞り込んだテーマごとの現状や課題と共に改善策と施策アイデアの素案を部会員に作成してもらう。次回は具体的な施策アイデアを考えた上で、強み・弱みについて参加者の皆さんで深掘りしていきたい。

## 協議の流れ

## 1 第 2 回市民会議振り返り

- ・ 1 回目は自己紹介を中心に各自が考えていることを発表し、2 回目はテーマに沿った資料に基づく市の状況の説明を受けた。
- ・ テーマについて、推進会議会長から「生きがいは個人のもので市が施策として提示するのは違和感がある」との意見を受けたが、参加者からも意見が欲しい。生きがいを「やりがい」に変えると、これまでの議論とも馴染んでくると思うので、異論がなければそうしたい。（参加者からの異論はなし）
- ・ 今日の会議では具体的にテーマを絞り込みたいと思っているので、2 グループに分けて議論するグループワークをしたいと思っている。
- ・ 「川西市の強みを生かした新たな取り組みを考える」グループと「川西市の弱みを克服する改善策を考える」グループに分けたい。

参)：市民参加者、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

( 様式 )

- ・グループ分けは、参加者自身の希望を聞いた上で同数の編成にする。

## 2 松阪市における住民協議会について

(ナビゲーター 元松阪市長、しろひげ在宅診療所院長 山中 光茂氏より説明)

- ・住民のそれぞれの立場で果たす役割は大事と感じており、松阪市長時代には住民協議会を43の中学校区ごとに3年かけて作った。
- ・住民協議会は、自治会だけでなく消防団やPTA、健康づくりや子育ての団体など、様々な立場の人の意見を反映させたいと思い、立ち上げに取り組んだ。
- ・地域はそれぞれ特性のある状況を持っており、それに応じた活動が必要だと感じていたことから、住民協議会ごとに地域計画を作ってもらった。
- ・地域計画を策定するにあたっては、「住民自身に頑張ってもらう」方法がある。これは限られた人だけが頑張っている状態になるが、行政にとっては楽である。
- ・本来は、「住民主体であり、それを行政がバックアップする」形態が大事と思っている。お金だけでなく行政職員の労力も提供するが、地域づくり担当の職員だけでなく各施策の担当職員も加わる。
- ・さらに、「行政」が頑張る形があり、施設や道路の整備など、行政が主体的に実施しないといけないことがある
- ・今回は、市の強み・弱みについての意見を求めるが、ぜひ を意識した議論をしてもらいたい。
- ・特に のあり方、 から への関連性なども念頭に置いて議論してもらいたい。
- ・今後、現時点では地域づくりに関心のない市民に対しても、働きかけていけるようなものにしていかなければならない。
- ・推進会議からの「生きがい」についての提案は、議論の本質である地域活動の促進として考えればいいと思う。

## 4 新たな取組みを考えるグループと改善策を考えるグループにわかれての議論

### <新たな取組みを考えるグループ>

情報発信

ナ) 施策アイデアを考えるにあたって、「誰がするか」「誰に呼びかけるか(範囲)」

「行政に求める役割は」を整理して進めるべき

参) 高校の総合授業の一環で、猪名川町を紹介するパンフレットを作った。マップ形式での情報に加えて、地域のイベントなどをカレンダーに編集して掲載した。地域の人への取材なども行い、成果品は道の駅にも掲示してもらっているが、これを地域交流の促進につながるような活動、情報発信としてやってみてはどうか。

参) 「カレンダープロジェクト」と題して、効果的な情報発信ができる方法を考えてみてはどうか。

参) 年代に応じて、スマホでのSNS機能などを活用した方法と共に、紙媒体での手作り感のあるものも大切にすべき

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

( 様式 )

- 参) 既にある媒体に対して、分野別や施策別、地域別のものを構築することで、より魅力のあるものになるのでは。
- 参) インターネットでは、すでに「かわにしマガジン」という川西・猪名川町に特化した地元民をターゲットとした小ネタを集めたサイトがある。これを、さらに地域に特化したものとして作ってみてはどうか。自治会回覧板情報などの旧来からの情報に加えて、地域の店舗・施設情報やサービス情報、それに口コミ情報やイベントカレンダー情報なども盛り込めば、地域の活性化にもつながるのではないかな。
- 参) 地域でのボランティア活動を求めたり、特技を生かした貢献をしたいなど、地域での人材のマッチング情報も含められれば良いのではないかな。
- 参) 実施主体は住民になるが産官学の協力が不可欠であり、特にどう進めるか、どう協力を得るかの部分は、官のバックアップがあれば対外的な信頼度が大きくなる。例えば資金を集める手法としてクラウドファンディングがあるが、市が関係していることがわかるだけでも効果があると思う。
- 参) 企業や学生に協賛を得るためには、企業・学生側にもメリットが必要だと思う。
- 参) 子育てについて、英語教育の面では、幼児教育の時点で（裕福な家庭と）格差が生じている。そのため、自身で交流する場を設けようとしたが、個人で開催しても人が集まらない等の問題があり、ボランティア登録も基準があり、相談先はわからない状態であった。
- ナ) 松阪市では、NPO や地域団体、関連企業等と連携をとっている。一定のルールを定め、PR やスポンサーなどで側面支援を行う。
- 参) 福祉について、各地域・施設や関連する講演の情報がわからない。介護は子育て以上に孤立する。

#### <改善策を考えるグループ>

- コ) 様々な切り口から地域交流を考えてみてほしい。普段感じていることから、改善策までを考える必要がある。地域が頑張っていて、行政がバックアップする仕組みを考えて欲しい。

#### 自治会

- 参) ゴミ出しのルールをまもらない人が多い。
- コ) この班で話し合うのは地域交流や地域活動なので、そういった問題に対して地域で活動して解決できるのかを考えてほしい。
- 参) 新しいアパートとか、後から来た人はルールがわかっていないときがある。新しい人・若い人は自治会に入っていないことが多い。
- 参) 自治会が何をやっているのか情報が入ってこないし見えてこない。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

( 様式 )

- 参) 何をやっているのか分からないため、自治会の加入率が低下することが、地域活動の衰退に結びつくのか分からない。
- 参) 若い人は役員をさせられるのが嫌で入っていない。
- 参) 自治会に代わるような組織があればいいと思う。
- 参) そもそも自治会はどういう定義で何をする組織と決まっているものなのか。
- コ) 自治会の定義や活動についてもう一度調べてみて、何が問題か、何を取り組んでいけばよいかそういうことを次回考えてみましょう。

防災

- 参) 災害があった際に、地域交流（地域での支えあい）が必要になる。
- 参) 去年の台風の時、近所の人に避難所を教えてもらった。
- 参) 近所の人同士で災害弱者をサポートする必要があると思う。
- 参) 市が主導して、防災訓練を実施するなど地域交流のきっかけ作りをしてほしい。
- 参) 防災マップも見ることがないし、どこが避難所かわからなかった。
- 参) 市は防災マップを配布している。それを見たらよいのでは。
- 参) そういった情報の発信の仕方も考えた方がよいと思う。例えば、イラストを使って目に入りやすいものにしたり、SNS を活用して発信してはどうか。
- コ) 災害が起きたとき、行政や救急車がすぐ来てくれるわけではない。自分と地域の人がまず頼りになる。地域活動のテーマとして、考えてみてもよいと思う。今の川西市の現状については、次回整理しましょう。

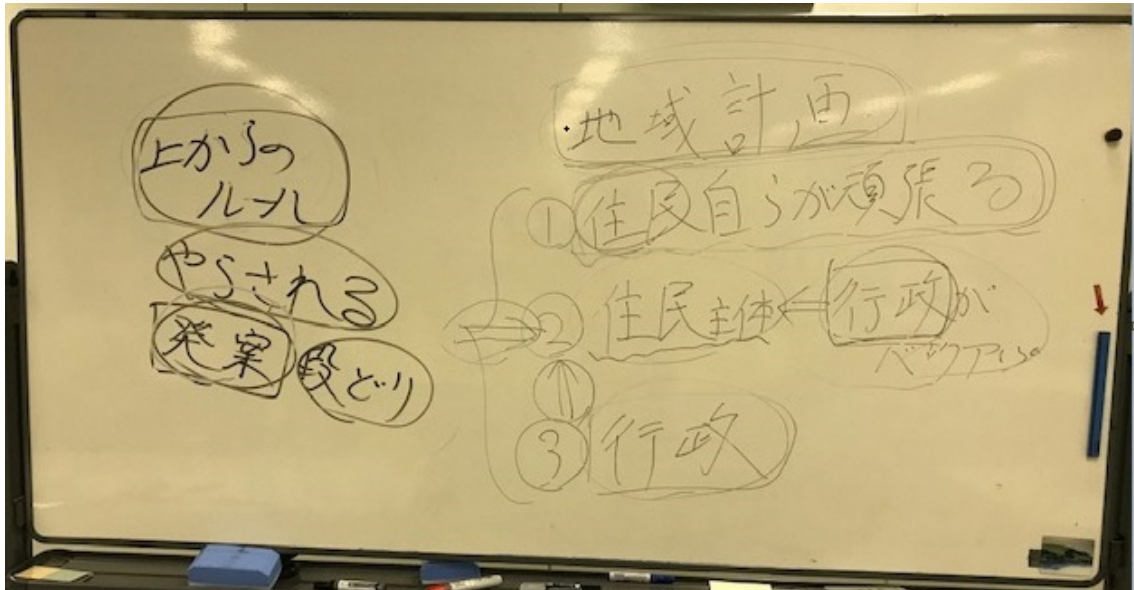
子育て

- 参) 子どもを預けたくても預けられない。私の住んでいる地域に保育園はできたが、地域の実情にあった人数を受け入れてもらえない。
- 参) それは保育士の数の関係もあるのではないか。
- 市) 市の課題として待機児童の解消があることは承知しているが、地域交流という観点で、地域で子どもを見守ったり、交流する仕組みを考えるのはどうか。
- コ) 子育てという切り口で地域ではどう子育てに関わっていけるのかを考えてみましょう。

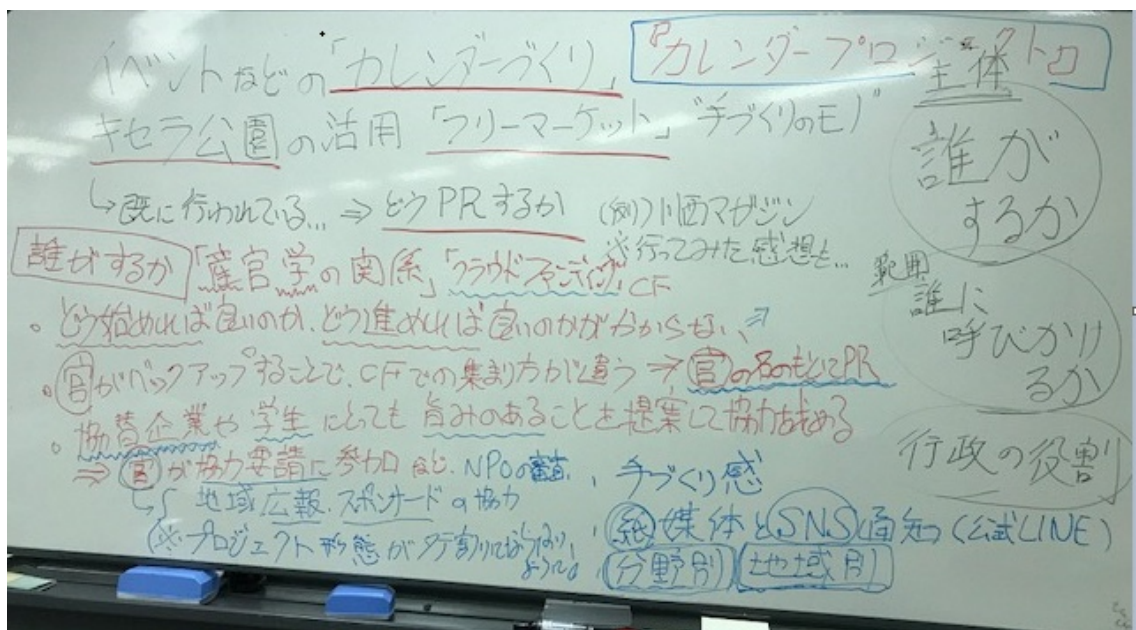
(様式 )

ホワイトボードの写真>

ナビゲーター説明



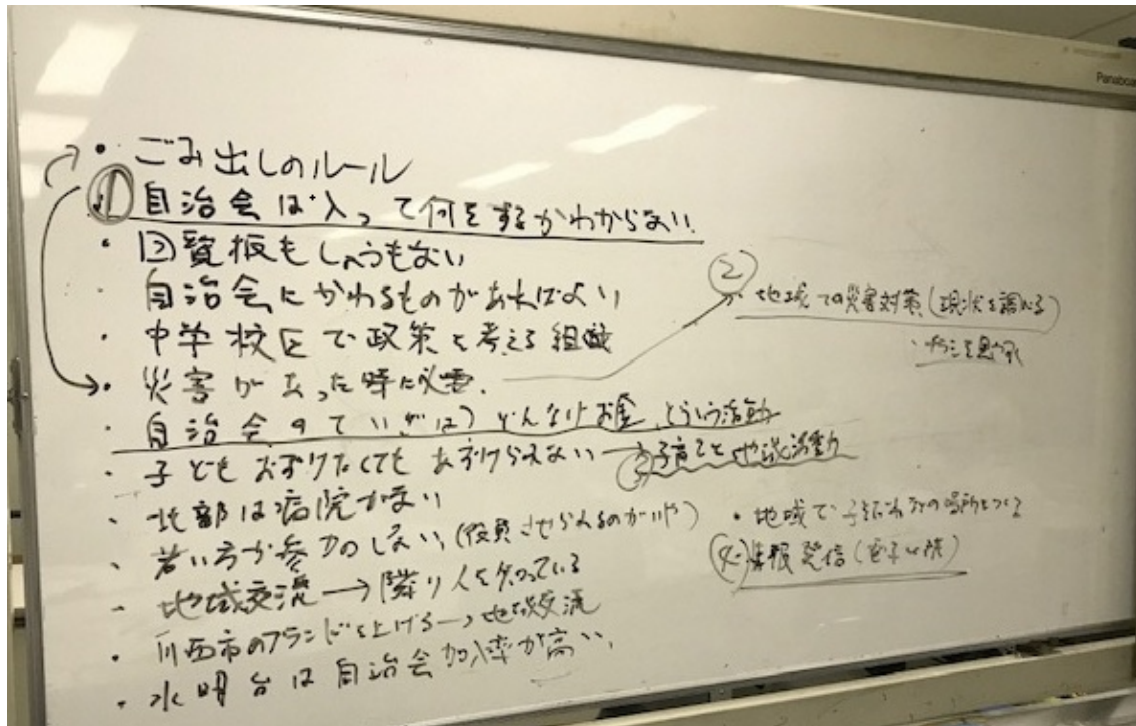
新たな取組を考えるグループ



参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式 )

改善策を考えるグループ



参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者